

“グリーン・ツーリズム”とは？

ひと言でいうと、“農山村で休暇を過ごすこと”、もしくは“体験生活を行うこと”です。大田原ではさらに、“農山村で体験を通しながら地域の方と交流し過ごすこと”を指します。

日本では、1992年に農林水産省が農村地域政策としてグリーン・ツーリズムを唱え、各地で実施されはじめました。大田原市でも各地で独自に行われていた活動を一体的に推進するため、2012年に市をあげて「大田原グリーン・ツーリズム推進協議会」を発足いたしました。また、民間のノウハウや安全管理能力、サービス精神を取り入れるため株式会社大田原ツーリズムを設立し、この度大きく推進するに至りました。

近年、多くの教育機関が修学旅行として農村を訪れ、教育活動の一環としてグリーン・ツーリズムを役立てています。希薄化する人間関係を改善し、産業や文化・歴史への理解を深めることで、豊かな心を育むことができます。地域の魅力を最大限に活かし、体験や交流を通して掛け替えのない感動を味わえることがグリーン・ツーリズムの魅力です。

大田原でのグリーン・ツーリズムの魅力は？

大田原市について

大田原市は「大俵」に由来し、その名の通り昔から米を始めとする農業が盛んな地域で、耕種農業や繁殖・肥育、酪農を営む畜産業の農家さんが多くいます。

また、広大な平野地と農業が盛なことから、市内に6つもある酒蔵や麺、瓶詰などの食品に関わるメーカーも数多く、農から食まで一貫した産業を有しています。また、医療福祉分野の発展も目覚ましく、那須赤十字病院を始め東芝メディカルや国際医療福祉大学など現場から学術機関まで整っています。このような地域資源を活かし、様々な体験プログラムを提供できることが大田原市にしかない魅力の一つです。

大田原市の各地域について

大田原市は旧大田原地区、黒羽地区、湯津上地区の3つの地域から成りたち、それぞれ違った特徴を持っています。

旧大田原地区は平野部が広がり米や唐辛子、うどんなど耕種農業が盛んです。また、源平合戦で活躍した那須与一のゆかりの地としても知られています。

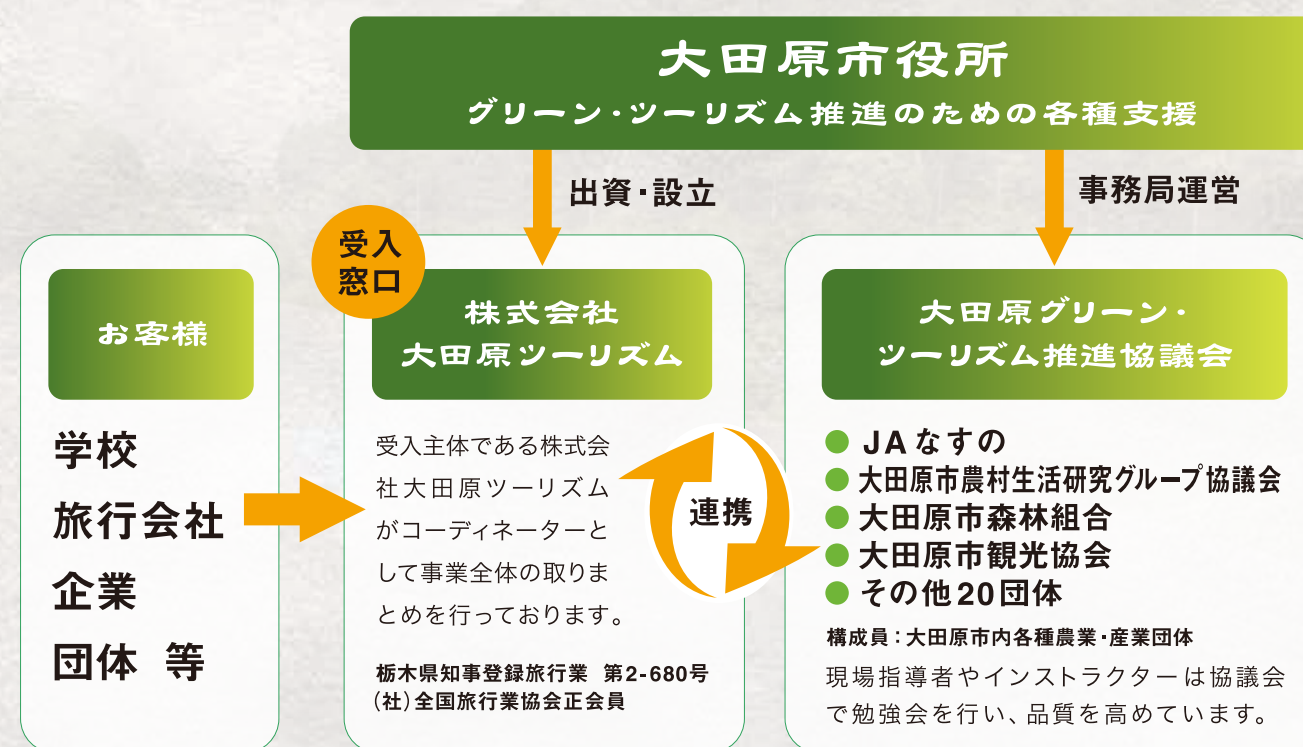
黒羽地区は八溝山系の麓、中山間地域に位置し那珂川の鮎や棚田で育つ国内有数の米の黒羽米、黒羽茶、山菜など地形を生かした農業が盛んです。また、松尾芭蕉が奥の細道の道中、一番長く滞在(13泊14日)し多くの軌跡を残しました。黒羽の雄大な自然、寺社仏閣の素晴らしさを窺うことができます。

湯津上地区は、繁殖・肥育・酪農を営む畜産業が盛んに行われ、世界中の淡水魚を観察できる「なかがわ水遊園」も有しています。また、古墳が多く残り、当時の生活を知ることができます。独自の文化も色濃く残り、日本一の大きさを誇る木製の天狗面など歴史を紐解くことができます。



大田原グリーン・ツーリズムの受入体制

組織図



受け入れまでの流れ

